

平成 28 年度 四日市港管理組合当初予算の概要

1 当初予算編成の考え方

平成 28 年度当初予算は、「四日市港戦略計画(2015～2018)」の 2 年目であることや、組織団体（三重県・四日市市）を取り巻く厳しい財政状況を踏まえ、事業の選択と集中を図り、掲げた目標の達成に向けて、着実に取り組んでいけるよう編成しました。

2 予算の規模

(単位：千円、%)

区 分	27年度当初予算	28年度当初予算	増 減 額	伸び率
一 般 会 計	6,666,581	7,037,251	370,670	5.6
(県 市 負 担 金)	(3,221,373)	(3,174,215)	(Δ47,158)	(Δ1.5)
港湾整備事業特別会計	4,028,818	2,799,113	Δ1,229,705	Δ30.5
合 計	10,695,399	9,836,364	Δ859,035	Δ8.0

(1) 一般会計

一般会計の予算総額は約 70 億 3,725 万円です。平成 27 年度当初予算額と比較しますと、歳入にあっては、港湾改修事業費負担金等の増により国庫支出金が約 1,177 万円増加するとともに、直轄事業負担金の増等による組合債の増が 3 億 8,100 万円となっています。

また、歳出にあっては、直轄事業負担金の増により港湾建設費が約 4 億 7,384 万円増加する一方、港湾管理費が約 8,173 万円、公債費が約 1,928 万円減少しており、これらの要因により、約 3 億 7,067 万円の増加となっています。

(2) 港湾整備事業特別会計

特別会計の予算総額は約 27 億 9,911 万円です。平成 27 年度当初予算額と比較しますと、歳入にあっては、ポートビル使用料をはじめとする港湾施設使用料の増により使用料・手数料が約 2,333 万円増加する一方で、平成 27 年度に霞ヶ浦地区北ふ頭土地造成事業や霞ヶ浦地区南ふ頭岸壁荷役機械改修事業が完了したことに伴って、組合債が 9 億 7,000 万円減少しています。

また、歳出にあっては、前述の理由により建設事業費が約 10 億 952 万円減少し、公債費も約 1 億 5,902 万円減少しており、これらの要因により、約 12 億 2,971 万円の減少となっています。

3 主な取組

四日市港管理組合は、「四日市港戦略計画(2015～2018)」に基づき、ご利用いただく皆さんに、さらに満足していただけるような港をめざして、3つの視点に立った取組を中心に進めてまいります。

政策1 物流を支える港づくり

四日市港は、国の港湾政策上、名古屋港と連携して中部地域の国際海上コンテナを取り扱うこととされ、今後も製造業を中心とした中部圏の産業を物流面から支えていく必要があります。

一方で、長い歴史を有する港でもあることから、老朽化に伴う施設の機能低下への対策も進めていかなければなりません。

このような認識のもと、背後圏の産業を支え、荷主企業や船会社から選ばれる港となるため、船会社や荷主企業などのニーズを把握した各種補助制度による支援といったソフト面のみならず、港湾施設の機能強化や老朽化対応などのハード面との両面でしっかり取り組んでいます。

ソフト面では、荷主企業のニーズの集約・分析を進め、四日市港利用促進協議会を核とした官民連携によるポートセールス体制を展開するとともに、四日市港利用拡大支援補助金等の活用を促進するなど、取扱いコンテナ貨物の多様化と貨物量の拡大に取り組めます。

ハード面では、港内での荷役時間を短縮し、大型化するコンテナ船に対応するため、平成26年度から取り組んでいる霞ヶ浦地区北ふ頭80号岸壁におけるコンテナクレーン3基体制の平成28年度中の実現を目指します。

また、臨港道路霞4号幹線の早期完成に向け、事業主体である国に協力するとともに事業が円滑に促進できるよう、地元住民や関係行政機関等との協議・調整を引き続き行っていきます。

<主な事業>

(特別会計)

- ・ **ポートセールス事業** 10,133千円
〔 国内外でのポートセールスを精力的に展開していくための旅費や、四日市港利用促進協議会参画のための経費。 〕

- ・ **四日市港利用拡大支援補助金** 30,000千円
〔 四日市港で揚げ積みするコンテナ貨物を、一定量以上増加させた荷主企業を支援する。 〕

- ・ **コンテナ定期航路サービス維持・拡充事業補助金** 20,000千円
〔 コンテナ貨物を、四日市港で積み替えて輸出入する船会社を支援する。 〕

- ・ 四日市港グリーン物流促進補助金 20,000 千円
 [四日市港を利用することによって環境負荷の低減を図ろうとする荷主
 企業を支援する。]

- ・ 基幹航路等コンテナ船寄港誘致事業補助金 20,000 千円
 [新たに四日市港に寄港する基幹航路等のコンテナ航路を開設する船会
 社を支援する。]

- ・ 霞ヶ浦地区北ふ頭荷役機械(コンテナクレーン)建設 491,368 千円
 [霞ヶ浦地区北ふ頭にコンテナクレーンを1基増設する。(平成26年度
 から平成28年度の債務負担)]

- ・ G上屋耐震補強及び改修 75,969 千円
 [四日市地区G上屋の耐震性確保及び長寿命化のための整備を行う。]

- (一般会計)
- ・ 霞4号幹線整備事業 2,440,000 千円
 [国の行う霞4号幹線整備事業に対する負担金。
 平成28年度は、主に橋梁上部工を行う。]

- ・ 霞ヶ浦地区27号岸壁(-12m)改良事業 175,000 千円
 [供用から40年以上が経過し、老朽化が進んでいる霞ヶ浦地区27号岸
 壁の上部コンクリート補修等の予防保全事業を行う。]

- ・ 超大型船寄港対応促進事業(新規) 35,000 千円
 [世界的なコスト削減、輸送の合理化を目的としたコンテナ船の大型化
 への対応及び三重県の国際的知名度アップに伴う超大型客船の誘致活
 動にも有効な策として、現有施設での全長300m超級船の受入のため
 の条件を検討する。]

政策2 安全・安心を支える港づくり

四日市港は災害発生時には背後地の住民・企業や港の利用者の生命・財産を守り、被災後には速やかに背後地の復旧・復興を支えることができる港となることを目指し、取組を進めています。

特に、地震・津波・高潮などの災害から背後地の住民や企業を守るため、海岸保全施設の点検・補修等の適切な維持管理を行い、老朽化した施設や危険性が高い施設について、効率的・効果的な整備に順次取り組んでいきます。

また、重要国際埠頭施設等への不審者や不審車両等の侵入を防止し、港湾活動の安全性の向上を図るための保安対策も確実に実施していきます。

<主な事業>

(一般会計)

- ・ 富田港地区護岸補強工事 280,000 千円

富田港地区における高潮等による海水の侵入を防止するため、護岸補強を行うと共に耐震機能の向上を図る。完成予定は平成 30 年度であり、平成 28 年度は地盤改良工や鋼矢板圧入工及び仮設鋼矢板工を行う。

- ・ 海岸保全施設長寿命化計画策定 21,000 千円

海岸保全施設内設備として維持管理を行っている排水機場、水門設備、樋門設備及び防潮扉の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減等を目的として、設備の耐震調査を行うとともに設備健全度判断基準を策定する。

- ・ 改正 SOLAS 条約対策推進事業 74,873 千円

四日市港内の重要国際埠頭施設への不審者や不審車両等の侵入を防止し、港湾活動の安全性の向上を図るため、警備保安業務や保安設備保全点検業務の委託等を行う。

政策3 環境を守り、親しまれる港づくり

四日市港は、港内の水環境の保全活動、藻場の再生に向けた実証実験や県民・市民を対象に身近な自然や生き物とふれあう生き物観察会の開催などの生物多様性や自然環境の保全に向けて取り組んでいます。

霞ヶ浦地区周辺に多くの県民・市民が訪れてもらえるよう、学校教育・社会教育の場としてのポートビル展望展示室の役割に鑑みて、その積極的活用を図るとともに、緑地・公園等の施設については、地域住民やサークル等諸団体に交流や文化・芸術・スポーツ等の発表の場として幅広く活用してもらえるよう取り組みます。

四日市地区については、千歳運河周辺の景観やレクリエーション機能に配慮しながら、末広橋梁付近の緑地整備を進めます。

<主な事業>

(一般会計)

・環境調査推進費

6,069 千円

四日市港管理組合の事務事業及び港湾活動から発生する温室効果ガスの削減を推進するため、温室効果ガス削減協議会における講演の実施、四日市港の水質調査等を行う。
また、藻場再生事業として、アマモの育成ノウハウ蓄積のための実証実験を行う。

・イベント・交流事業

1,429 千円

多様な主体との連携による「四日市みなと講座」、「四日市港まつり」等の開催経費。

・千歳運河沿い緑地整備

203,000 千円

港における親しまれる空間を拡大するため、四日市地区の千歳運河沿いの物揚場を景観等に配慮した緑地へと整備する。平成 28 年度は下部施設となる護岸工事を行う。

(特別会計)

・陸上電力供給施設整備（新規）

2,000 千円

自然環境の保全や温室効果ガスの削減のため、停泊中の船舶に電力を供給する陸上電力供給施設を平成 30 年度までに 6 施設整備する。
平成 28 年度は詳細設計を行う。